

どぶ川清掃して アユ8匹捕れた

武豊・堀川



捕獲したアユを確かめ、バケツに移すエコクラブ員たち＝武豊町

数年前まで異臭を放っていた武豊町の堀川で16日、地元環境保護団体「武豊エコクラブ」（鈴木樹雄会長、約50人）がアユ8匹を捕獲した。7月ごろから「アユがいる」という情報があり、確認しようと取り組んだ。

捕獲場所は、同町立衣浦小学校の脇に架かる「合併橋」の上流で、河口からは約1・6キロ地点。水路がやや広くなった場所に網を掛け、下流からクラブ員が追い込んだところ、網の中に8匹のアユが見つかった。大きさは14〜17センチだった。

同川は町の市街地の南部を巡り、衣浦港に注ぐ。ごみが投げ込まれるなどしてどぶ川化していたのを、6年ほど前から地域住民が中心になって清掃。昨年からは、同エコク

ラブが水質浄化に役立つとされる有用微生物群（EM菌）を混入した団子6千個を現場上流に投入した。その結果、ヘドロ状だった川底に砂地が見えるようになり、今年7月下旬からアユの発見情報が聞かれるようになったという。

地元の淡水魚に詳しい原稜・元半田市立青山中学校長（79）は、「アユが見つかったのは、矢作川などがきれいになって、アユが多くなったことと関係があるかも知れない」と話す。同クラブでは「堀川の水質がよくなってきたことの証明」と活動に自信を深めている。（浅井直）